



日本共産党
京都市会議員



京都市会報告

西村よしみ みんなの京北

決算議会「暮らし守れ」論戦

9月から10月、11月から12月と京都市会が開かれましてので報告いたします。

9月は決算市会で、主な議案は決算と共に、観光客誘致方針による激増するホテルや民泊の問題、企業誘致のための規制緩和の問題などの案件がありました。また、公務の民間化推進や、市有地や施設が企業に提供されている問題について論戦がおこなわれました。また、学校跡地を民間へ提供する問題、中央卸売市場第一市場用地にホテルや商業施設を誘致する問題、市美術館再整備のネーミングライツ問題など議論がありました。

党市議団は、京都市の財政や経済について論戦。国が進めるやり方により市民の暮らしの予算を削るばかりだと批判しました。「市民は景気の実感はなく、消費税10%増税を中止するよう国へ求める」ことを迫りました。

市民リストラ推進を批判

市は歳出の抑制のため、職員削減や公的サービスの後退を進めています。例えば、大宮消防出張所の廃止。この結果、消防車の現場への到着時間が遅れ住民の安全が低下するところが明らかになりました。ま

た、区役所の保健センターを医療衛生センターに移動・集約されました。この結果、定期検査が追いつかず、増大する違法「民泊」対策や食中毒対応、感染症対策などに対応できる体制に不安が生じています。党議員は、抜本的な増員を強く求めました。

社会保障制度改悪

社会保障の課題では、制度を改悪して給付の抑制を進めていると指摘しました。国に対して制度の改善を強く求めること、市独自の対策を強化して市民サービスの拡充を求めました。

介護保険制度では、要支援1・2の総合事業への移行により、報酬額の減額、支え合い型ヘルプサービスの変更によ

り現場で混乱が続出していると指摘し改善を求めました。また、「介護保険料の値上げ発言」の撤回を求めました。

国保料の引き下げを

国民健康保険制度では、保険料が高いので引き下げを求めました。

敬老乗車証制度については、「制度改悪」をしようとしていることについて強く批判、現行制度の存続を求めました。

子どもの医療費無料化助成制度の拡充を求めました。が、拡充に込めず冷たい回答でした。

京北で議会報告懇談会

京北で6月25日、議会報告懇談会が開かれ参加しました。会場となった弓削自治会館の入り口に張り紙がありました。「welcome 北高これからはずっと」。府立北桑田高校の存続を求めるメッセージです。

このメッセージは、北桑田高校（南丹市にある同校美山分校も含め）存続のメッセージと受け止められました。京都市も小学校など学校統合を進めて、財政的効率化を図る計画です。住民の皆さんが、「地域の存続は学校存続から！」と運動を続けています。

この日の議会報告会は、かみね府議と吉田衆院予定



今年始めの大雪被害復旧へ



写真は、京北弓削町。この場所では今年の1月14日から17日にかけて降った大雪で、倒木が広範囲に発生していた場所です（上の写真）。大雪災害復旧対策として、伐採作業整備が進みました（下の写真）。

大雪被害は、北山杉倒木、ビニールハウス損壊等と共に、各地で停電や土砂崩れなども発生していました。

西村市議は、これらの被害対策を京都市に対して求め、議会でも取り上げると共に、京都府、近畿農政局等へ、復旧対策を求めてきました。



候補も参加して盛況でした。西村市議は、京北小中一貫教育校や地域振興対策について、京都市の財政状況と大型事業について、行き過ぎた観光政策などを報告しました。

公営企業会計

また、保育所の整備を進め、保育士のさらなる処遇改善と保育の質の向上をすること、公立保育所の民間移管は撤回することを求めました。

決算

市バス・地下鉄で運賃が日本一高いこと、運賃手が4年間は嘱託職員で問題があること、運営が民間委託であることなどを理由に決算を不認定。運賃や料金・使用料に消費税を上乗せ転嫁しないよう強く求めました。